



東中コミュニティ・スクールだより

第12号 令和8年3月吉日発行

さいたま市立東浦和中学校

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 1207-1

☎048-873-4141

「子どもたちを一流の地域人に」

「春の訪れを感じる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか」

2月24日に開催されました、第3回学校運営協議会・いじめ防止対策委員会の概要を報告させていただきます。

次第は、(Ⅰ) 校長あいさつ (Ⅱ) 長谷川浄意委員長あいさつ (Ⅲ)さいたま市教育長からのメッセージ動画視聴 (Ⅳ) 協議 (1) 学校全体の教育活動及び各学年・特別支援学級の教育活動について (2) 第3回いじめ防止対策委員会 (3) 第3回学校運営協議会 ①学校評価について(学校自己評価システムシートも併せて)②熟議「地域と共に東中生ができること」③令和8年度学校運営方針グランドデザイン(案)について④諸連絡となっています。

校長あいさつの冒頭、本橋 晃委員が昨年12月31日逝去されたとの報告がありました。

謹んで、お悔やみ申し上げます。

(Ⅳ) 協議(1) では、赤地教頭より、1月から3月に行われた主な学校行事等を紹介しました。

○1学年 百人一首大会 ○2学年 館岩「自然の教室」 ○3学年 学年レク「大縄跳び」

○7組販売学習(ネクストラップ、ポーチ、ガラススタイルコースターなど)

また、各学年・特別支援学級の教育活動について、各学年主任より、これまでの学年行事をはじめ、生徒たちの日常の様子について、学年だよりなどをもとに紹介しました。

続いて、学校保健委員会制作による動画「生まれてきてくれてありがとう」の視聴を行いました。

(2)第3回いじめ防止対策委員会開催

三上生徒指導主任より、別紙資料をもとに今学期のいじめ防止への取組み及び本校におけるいじめの状況について報告がありました。

(3) 第3回学校運営協議会

①石崎校長より、生徒、保護者の学校評価の集計結果をもとに、本校の学習状況や生徒の意識調査結果を踏まえた本校の現状把握と課題について説明がありました。

続いて、学校自己評価システムシートに係る5つの重点目標「1学びの質の向上に関する取組 2子どもの発達や心のサポートに関する取組 3地域とともにある学校づくりに関する取組 4教育環境の整備に関する取組 5教職員のキャリア形成に関する取組」の達成状況・課題について説明がありました。

②熟議「地域と共に東中生ができること」

【グループ別協議】 学校自己評価システムシートの5項目の重点目標について、現状と課題を踏まえたうえで、2つのグループに分かれて熟議を行いました。主な意見は、以下の通りです。

○グループ A

<重点目標1>授業改善における「個別最適な学び」には難しい面もある。学力については、小中9

年間を見通してしっかり基本を押さえていく、学びの連続性が大切と考える。＜重点目標2＞東中生徒の9割以上が「はげまし支援」を受けられているという教育相談の取組みはすばらしい成果。＜重点目標3＞ボランティアする生徒としない生徒の2極化が進んでいるようだ。しない生徒や興味のない生徒にどういうきっかけをつくっていきけるか。あまりハードルを上げずに、校内で何かできることをつくれば、校外へのボランティア参加につながるきっかけになるのではないか。＜重点目標4＞トイレの改修が完了して、快適に



なっていると感じる。＜重点目標5＞キャリア形成については、以前に比べキャリア形成に直結した内容になっている。日頃の業務のなかで、必要と思えるような研修を自ら選べる制度に変わってきたのは、今後、教員の資質向上を高める力につながるのではないか。

○グループB

＜重点目標1＞学習意欲は、やりたいと思う生徒自らの意識が重要。学習への「興味の持たせ方」にどう取り組んでいくか検討していきたい。＜重点目標2＞「おはようメーター」の有効活用を進めていきたい。＜重点目標3＞緑区内では、尾間木中のボランティアが活発になっている。その一つとして、「緑区民まつり」にPTAのスタッフが参加し、お茶やお弁当を出してサポートしている。PTA連合会を中心に緑区全体にこうした機会を増やし広げていきたい。＜重点目標4＞学校自体の設備は、私たちPTAはなかなか連携するのが難しいが、昨年PTAで購入した体育館の椅子のような形で支援していきたい。＜重点目標5＞学校にITメンターを専任で配置してほしい。

【ボランティア活動】

「地域と共に東中生ができること」をテーマに行われた今年度のボランティア活動の実施状況について、学校地域連携コーディネーターより報告がありました。

③令和8年度学校運営方針グランドデザイン(案)について、石崎校長より資料をもとに説明がありました。この計画については、委員の皆様には仮承認をいただいて、来年度が開けましたら、本承認をいただくという流れになっています。

＜質疑応答＞

教員の業務量管理において、教員たちが一番時間をかけなければいけないのは生徒のこと。教員自身が力をつけていくためにも、そこに集中できるような態勢をつくってほしい。

これに対応し、石崎校長から、中学校においての働き方改革を進めるには、部活動改革が避けて通れないとの意見がありました。

協議の最後に、「令和8年度学校運営方針グランドデザイン(案)」について、委員の皆様全員から承認をいただきました。

- ④諸連絡
- ・コミュニティスクールに関するアンケート調査について
 - ・委員の退任あいさつ

V, 閉会

(文責 学校地域連携コーディネーター)